

科目名		電気工事実習Ⅱ			
担当教員		藤田 力夫		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	173
授業概要、目的、授業の進め方	一般用電気工作物のケーブル配線工事、金属管工事、合成樹脂管工事を組み合わせた実習課題を時間内に作成する。指示書から設計、施工計画、配線図、材料準備、施工、検査、を行う。				
学習目標 (到達目標)	新潟工科大学を卒業したならば、即会社の役に立ち、のちに現場代理人になれるように。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	電気工事実技教科書 (独) 雇用・能力開発機構 および配布プリント等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ケーブル配線工事		複線図がきれいに書いているか、寸法は間違いなく使う材料は適当か、絶縁抵抗測定をして点灯確認まで間違いなく一人で出来るように		
2	金属管工事		金属管の部材を適材適所に使い、曲げ加工、全体がまとまってきれいに仕上がるように、ねじ切り加工がしっかりできるように		
3	合成樹脂管工事		合成樹脂管の曲げ加工をするときの火力の強さ、温める範囲は、角度はどのくらいをしっかりと身につける		
4	モーターシーケンス回路		自己保持回路を確実に覚えてもらう、インターロック回路を理解して施工管理出来るように。		
5	制御回路		センサーを使って動作確認をしてもらい、どんなところに使われているのか、考えてもらう。		
6	引込線工事		引き込み線を布設するときどこに力をつけるか、引込線と家側の電源線との接続点のジョイント部分の接続部分は、電柱部分の接続部分は。		
7	接地工事		接地極を打つ。接地抵抗の測定。接地抵抗低減の手法		
8	特別教育 フルハーネス安全帯		フルハーネス型安全帯の使い方をマスターする		
9	特別教育 低圧電気取扱		充電回路の工事、漏電遮断器の動作実験		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	課題	期末試験			
5 %	15 %	80 %	%	作業着、工具、安全靴、帽子など安全管理をしっかりとしましょう。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		電気工事会社に、実務経験は44年になります			